

環境省地球環境研究総合推進費によるプロジェクト研究  
「F - 5 サンゴ礁生物多様性保全地域の選定に関する研究」

H15.16 年結果概要

西海区水産研究所 石垣支所 澁野 拓郎

目的

○サンゴ礁生物群集（サンゴ・海藻・魚）について詳細な調査を行い、それらの生息環境の調査結果と合わせて解析することで、今までのサンゴ被度の高さだけで決められてきた保全区域の選定基準に対し、生物多様性を保護するための保全区域の選定基準を提示することを旨とする。

これまでの成果として、

- サンゴ群集だけを保全の対象にすると、海藻類、魚類が保全できない場合がある。
- これまでは、石垣島周辺宮良湾及び石西礁湖シモビシにおいて、生物群集（サンゴ、海藻、魚類）を種レベルで分析し、生育環境による分布の違いから構成種をいくつかの群に類別された。また、生物群集の中から各環境要素に対応した指標種を抽出できた。この指標種を利用すると、例えば希少種が成育している群集、希少種が成育している環境を保全の対象とすることが出来る。また、環境基準値の設定へも発展できる。
- 生物多様性（構成種）を保全するという視点から宮良湾、シモビシを比較すると、石西礁湖内のサンゴ被度の高いシモビシだけを保全の対象にした場合に抜け落ちてしまう生態系の特徴が多い（岸よりの砂地、アマモ場、礁原部、礁斜面に生息している生物群集は保全されない）。

今後の課題

サンゴ礁の生物多様性を保全するための広さをどう決めるのかが問題。

点の調査で面を決める方法論の開発